

SNSは学びには役立たない

- ▶ 学びとは、情報を仕入れることではない。むしろ、何かについて考える「体験」のことを意味するのではない。体験には「時間」が必要になる。知識はそれを持つだけではダメで、そのことについて一度考えないと使えない。
- ▶ その点では「効率よく学ぶ」という発想は、実は学びの本質に反している。「秒で情報を仕入れる」ことはできるかもしれないが、「秒で考える」ことはできない。考えることを教える教育は、本質的に時間がかかるし、資本効率が悪くなる。もちろん、SNSで注目を集めることにも向かない。
- ▶ SNSと政治は一見相性がいいように見えるが、実は根本的に相性が悪い。なぜなら、SNSは政治から「思考の時間」を奪うからである。いまはSNS上では、誰かが「#(ハッシュタグ)」をつけて発信して、それに賛同する人を10万人、20万人と集めることで、その数を力にすることが一般的になっている。民主主義は基本的に「数が力になる」という政治制度なので、このような方法がもっとも効率がいい政治のやり方ということになる。
- ▶ しかし、本当に必要なことは、人々に考えさせることである。かつての署名活動が必ずしもいいわけではないが、集める側も書く側も時間がかかった。名前を書く数十秒の間に、署名する側には署名を集める側と話す機会も生まれた。このような経験と、「ツイッター上でリツイートするだけ」というのを比較すると、決定的に体験の質が異なる。
- ▶ この状況が加速すると、政治活動をしているようでいて、実は「何も覚えていないし、何も考えていない」という状況につながる。SNSやデジタル環境は、人から思考する時間を奪っており、啓蒙や教育をやりにくくする面がある。